日本の若者は、諸外国の若者に比べ、自己肯定感が低いとされています。全国学力・学習状況調査の質問紙調査の「自分には、よいところがある」という質問について、「当てはまる」は年々増えてきていますが、外国の子供と比べると低いようです。なぜでしょうか。

自己肯定感については、自らの力の向上に向けて努力することで得られる達成感や他者からの評価等を通じて育まれる自己肯定感と、自分の長所のみならず短所を含めた自分らしさや個性を冷静に受け止めることで身に付けられる自己肯定感の二つの側面から捉えることが考えられるそうです。

校長先生のことを話します。校長先生は、高校生から献血を始め、4月23日に100回を達成しました。最近まで、献血しても特に思うものはありませんでしたが、最近、献血ルームにある掲示物を読んでいると、血液や血液から作る薬剤により命を維持している方が、献血した方へ感謝を示していました。

このような思いを読むと、「自分の行動が、日々人の命を助けているのだな」、「自分が人のために役立っているのだな」と強く思うようになりました。

このような具体を知ることで、最近の自分は自己肯定感が高くなっています。生徒の皆さんも、家族、地域の方、先生から「～こと良かったよ」とほめられることがきっとあると思います。ぜひ、その、あなたの良さを遠慮なく受けとめてください。そして、皆さんが、自信を持ち、自分を大切に、ポジティブに過ごすことを強く願っています。